

西隆一郎先生（鹿児島大学 水産学部教授）を招き 岸良小中学校にて

ウミガメの講演会開催



6月9日、岸良小中学校にてウミガメ講演会が行われました。これは、子どもたちがウミガメ保護活動を通して、岸良の自然の素晴らしさを確認するとともに、友達や家庭、地域に対する思いやりの心を育み、地域の一員としての自覚を深める機会として平成27年から毎年行われています。

講師は鹿児島大学水産学部教授の西 隆一郎先生。西先生は、ドローンを用いた最新のウミガメ上陸調査や、ウミガメの生態系についてクイズなどを用いて子どもたちに分かりやすく説明していました。

そんな西先生に質問！

Qウミガメの産卵地は各地にあります。その中でも岸良海岸の特徴を教えてください。

A（西先生）まず砂浜が広く産卵のためにメスが上陸しやすいことです。そして周りが静かで明かりが少ない。夜間に孵化した子ガメは、光のある方へ向かっていく習性があります。人工の明かりへ誤って進み海へ戻れなくなるといったことが少ないことも産卵地として適していますね。



Q先日岸良海岸へ行った際、浜崖という砂の段差を目にしました。ウミガメへの影響はあるのでしょうか。

A（西先生）ウミガメは、砂浜の奥のほうに卵を産みます。しかし、浜崖などでうまく上陸できなかったウミガメは、諦めて波打ち際の近くで産んで帰ることもあります。こうなると波の高低日に卵が海へ流れられ孵化できません。砂浜は波の働きによって形を変えます。浜崖もまた波の力によってできたものですので、緩やかな海岸線になるのを待つしかありません。



Q最後の質問です。岸良小中学校がウミガメ保護活動を評価され、文部科学大臣賞を受賞されました。先生はどの様な点が今回の受賞に繋がったと考えられていますか？

A（西先生）岸良小学校・中学校のみなさん、その保護者であるPTAの方々、そして地域の人たち全員で取り組んだことが大きいと考えています。本当におめでとうございます。

西先生ありがとうございました！